

A solid green circle with the text "第2章" inside it.

第2章

いわき市の自殺の現状

第2章 いわき市の自殺の現状

1 統計情報における自殺の現状

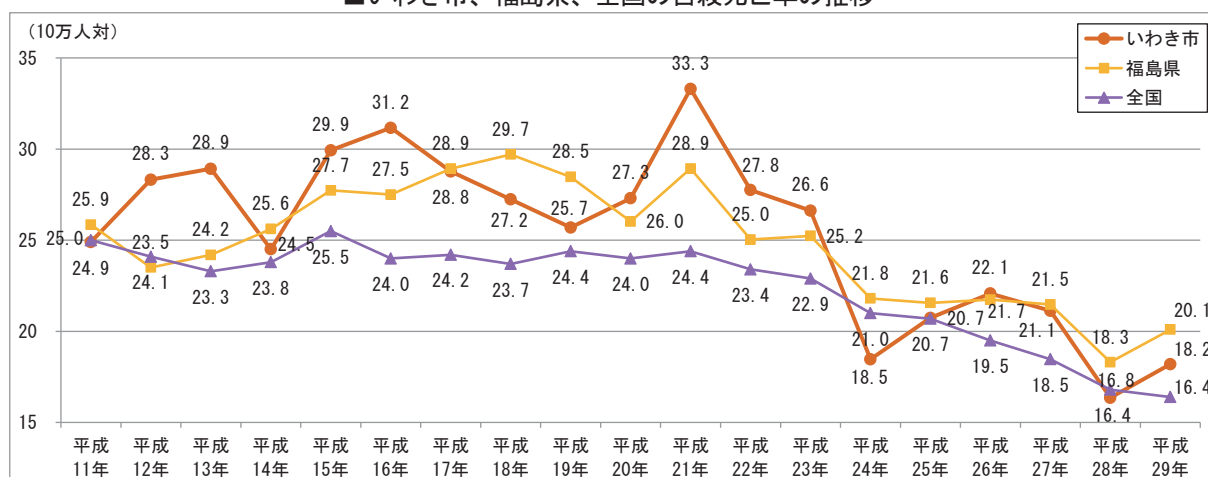
(1) 自殺死亡率の現状

①自殺死亡率の比較

人口動態統計による自殺死亡率をいわき市・福島県・全国で比較すると、全国では平成21年以降ゆるやかに低下傾向が続いていますが、いわき市と福島県では上昇・低下を繰り返しています。特にいわき市では、平成21年から平成26年にかけて大きな変動がみられ、その後は減少傾向となり、平成29年には18.2となっています。

なお、平成25年以降は、3者の差が小さくなり同程度の数値となっています。

■いわき市、福島県、全国の自殺死亡率の推移



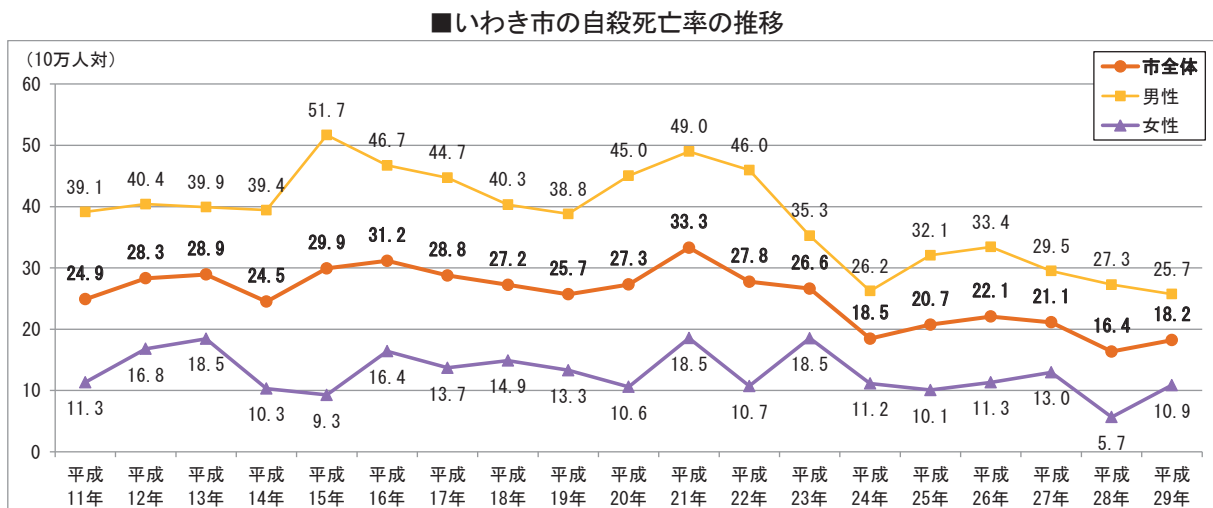
出典：人口動態統計



②いわき市の自殺死亡率の推移

人口動態統計によるいわき市の自殺死亡率は、ピーク時の平成21年には33.3でしたが、その後減少傾向がみられ、平成29年には18.2となっています。なお、この数値は、平成11年以降では平成28年の16.4に次いで低い値となっています。

これを男女別でみると、男性の値が女性の値を大きく上回る傾向が続いています。

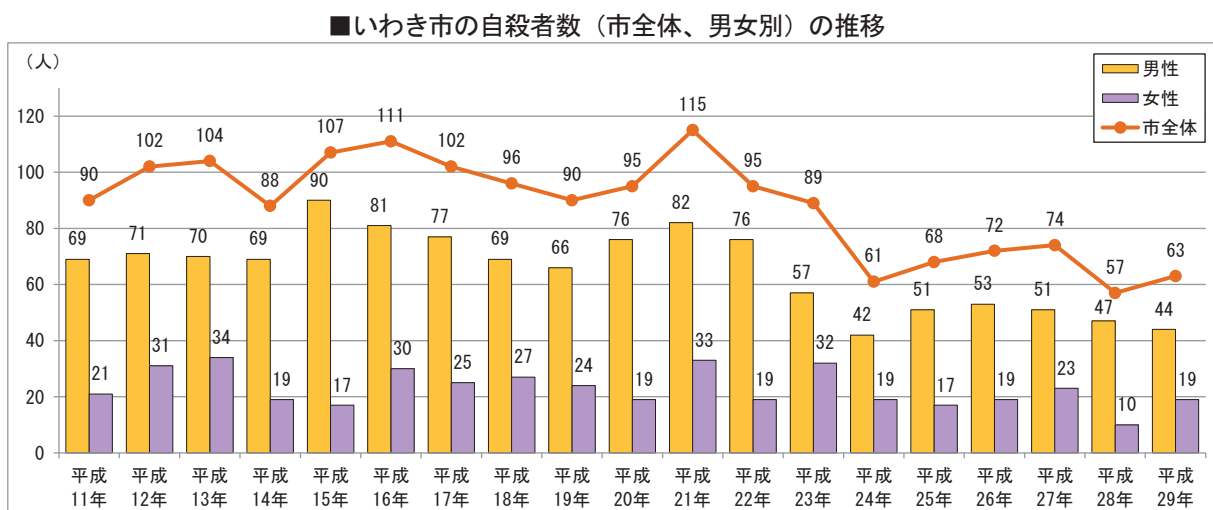


出典：人口動態統計

(2) 自殺者数の推移

人口動態統計によるいわき市の自殺者数は、平成20年以前は88人から111人の間で推移していました。その後、平成21年の115人をピークに平成24年にかけて大幅に減少し、一時的に増加傾向がみられたものの、平成29年には63人となり、平成21年の115人の約半数となっています。

自殺者数の推移を男女別にみると、男性が女性を上回る年が続いています。



出典：人口動態統計

第2章 いわき市の自殺の現状

(3) 職業別の自殺者数の推移

職業別の自殺者数は、「被雇用・勤め人」が多く、平成21年以降の8年間のうち5年で1位、他の3年では2位となっており、各年で上位となっています。このほか、「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」が各年において上位を占めています。

■職業別の自殺者数の推移

	1 位		2 位		3 位	
平成21年	被雇用・勤め人	40人	年金・雇用保険等生活者	30人	その他の無職者	17人
平成22年	被雇用・勤め人	30人	その他の無職者	24人	年金・雇用保険等生活者	20人
平成23年	被雇用・勤め人	27人	年金・雇用保険等生活者	23人	その他の無職者	19人
平成24年	年金・雇用保険等生活者	20人	被雇用・勤め人	16人	その他の無職者	13人
平成25年	被雇用・勤め人 その他の無職者	23人	年金・雇用保険等生活者	15人	失業者	7人
平成26年	その他の無職者	22人	被雇用・勤め人	19人	年金・雇用保険等生活者	18人
平成27年	年金・雇用保険等生活者	26人	被雇用・勤め人	20人	その他の無職者	19人
平成28年	被雇用・勤め人	20人	年金・雇用保険等生活者	15人	自営業・家族従業者 その他の無職者	6人

注意：自殺者数5人以下の分類を表示しないよう、上位3区分のみ表示としています。

出典：自殺統計

(4) 年齢階層別の主な死因における自殺死亡者（平成28年）

10歳代以上の10歳階級別の死因をみると、10歳代から30歳代では、死因の第1位が「自殺」となっています。また、40歳代では「自殺」が死因の第3位となっており、40歳代以下の各年齢層において、自殺は死因の上位を占めているといえます。

■年齢階層別の死因順位

	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合	死因	死亡数	死亡率	割合	死因	死亡数	死亡率	割合
10歳代	自殺	3	9.3	50.0	悪性新生物	1	3.1	16.7				
					心疾患	1						
					不慮の事故	1						
20歳代	自殺	2	7.1	33.3	悪性新生物	1	3.6	16.7				
					肝疾患	1						
					その他の先天奇形及び変形	1						
					不慮の事故	1						
30歳代	自殺	8	21.0	38.1	悪性新生物	4	10.5	19.0	心疾患	3	7.9	14.3
40歳代	悪性新生物	15	31.9	25.0	心疾患	12	25.6	20.0	自殺	8	17.0	13.3
50歳代	悪性新生物	60	131.8	38.0	心疾患	30	65.9	19.0	脳血管疾患	19	41.7	12.0
60歳代	悪性新生物	227	404.9	48.2	心疾患	68	121.3	14.4	脳血管疾患	41	73.1	8.7
70歳代	悪性新生物	282	730.9	34.9	心疾患	136	352.5	16.9	脳血管疾患	100	259.2	12.4
80歳以上	悪性新生物	494	1,535.6	18.7	心疾患	486	1,510.8	18.4	老衰	330	1,025.8	12.5

出典：人口動態統計、住民基本台帳の結果を基に独自に集計

(5) 手段別自殺死亡率の比較

①手段別自殺者数の推移

手段別の自殺者数は、各年において「首つり」が全体の半数以上を占め1位となっています。次いで「その他」が多くなっています。なお、平成26年と平成27年では、「練炭等」が2位となっています。

■手段別の自殺者数の推移

	1 位		2 位		3 位	
平成21年	首つり	68人	その他	24人	練炭等	14人
平成22年	首つり	56人	その他	19人	練炭等	16人
平成23年	首つり	61人	その他	14人	練炭等	9人
平成24年	首つり	41人	その他	14人	練炭等	7人
平成25年	首つり	42人	その他	13人	飛降り	8人
平成26年	首つり	49人	練炭等	15人	その他	6人
平成27年	首つり	54人	練炭等	10人	その他	8人
平成28年	首つり	39人	その他	7人		

注意：自殺者数5人以下の分類を表示しないよう、上位3区分のみ表示としています。

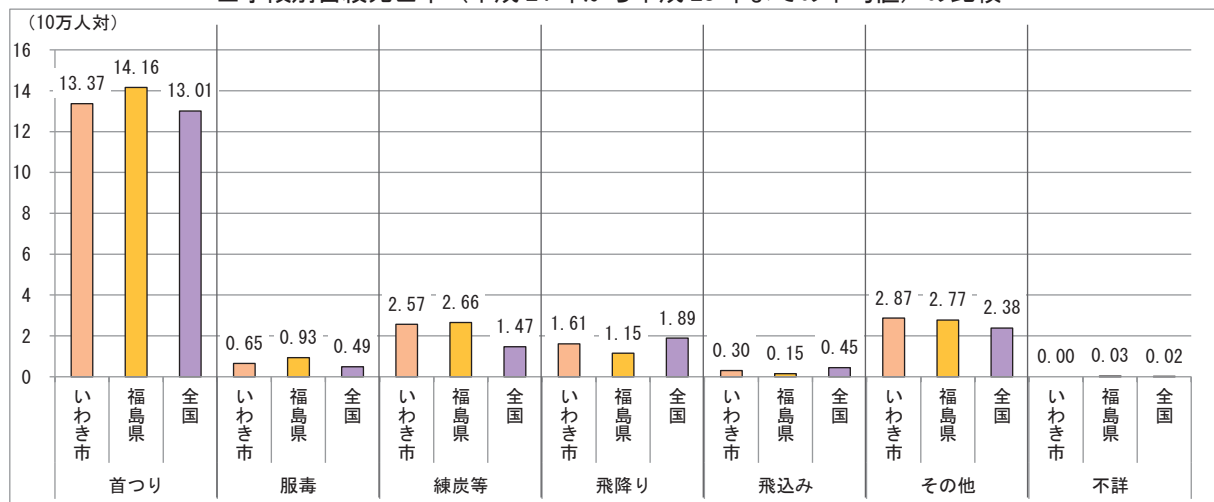
また、平成28年の数値は5人以下の自殺手段を記載していません。

出典：自殺統計

②手段別自殺死亡率の比較（いわき市・福島県・全国）

手段別自殺死亡率について、平成24年から平成28年までの値を平均すると、いわき市、福島県、全国とも「首つり」の割合が最も高く、いわき市は福島県より低いものの、全国の値を上回っています。

■手段別自殺死亡率（平成24年から平成28年までの平均値）の比較



出典：自殺統計

第2章 いわき市の自殺の現状

(6) 原因・動機別の自殺者数

①原因・動機別の自殺者数の推移

原因・動機別の自殺者数の推移では、例年各年において「健康問題」が最多で、次いで「不詳」が多くなっています。なお、平成22年と平成23年では「経済・生活問題」が2位となっています。

また、「勤務問題」は、平成25年までは5位以下でしたが、平成26年と平成28年には3位と順位を上げています。

■原因・動機別の自殺者数の推移

	1 位		2 位		3 位	
平成21年	健康問題	54人	不詳	31人	経済・生活問題	27人
平成22年	健康問題	51人	経済・生活問題	34人	不詳	21人
平成23年	健康問題	57人	経済・生活問題	18人	不詳	15人
平成24年	健康問題	31人	不詳	26人	経済・生活問題	13人
平成25年	健康問題	31人	不詳	26人	家庭問題	9人
平成26年	健康問題	36人	不詳	27人	勤務問題	10人
平成27年	健康問題	55人	不詳	22人	家庭問題	10人
					経済・生活問題	
平成28年	健康問題	32人	不詳	12人	勤務問題	9人

注意：自殺者数5人以下の分類を表示しないよう、上位3区分のみ表示としています。

出典：自殺統計

②原因・動機別の自殺者死亡率の比較

原因・動機別の自殺死亡率をいわき市・福島県・全国で比較すると、「家庭問題」では平成23年以降福島県と全国を下回る傾向が続いています。

「健康問題」では、平成21年から平成23年までと平成27年で福島県と全国を上回っていましたが、平成28年には福島県と全国のほぼ中間の9.18となっています。

「経済・生活問題」では、平成22年には福島県と全国を上回っていましたが、平成25年以降福島県と全国を下回り、平成28年には2.30となっています。

「勤務問題」では、福島県と全国と比べて上昇・低下が大きく、平成28年には福島県と全国より高い2.58となっています。

「男女問題」では、平成22年、平成23年では福島県と全国を上回っていましたが、平成24年以降は低下し、平成28年には0となっています。

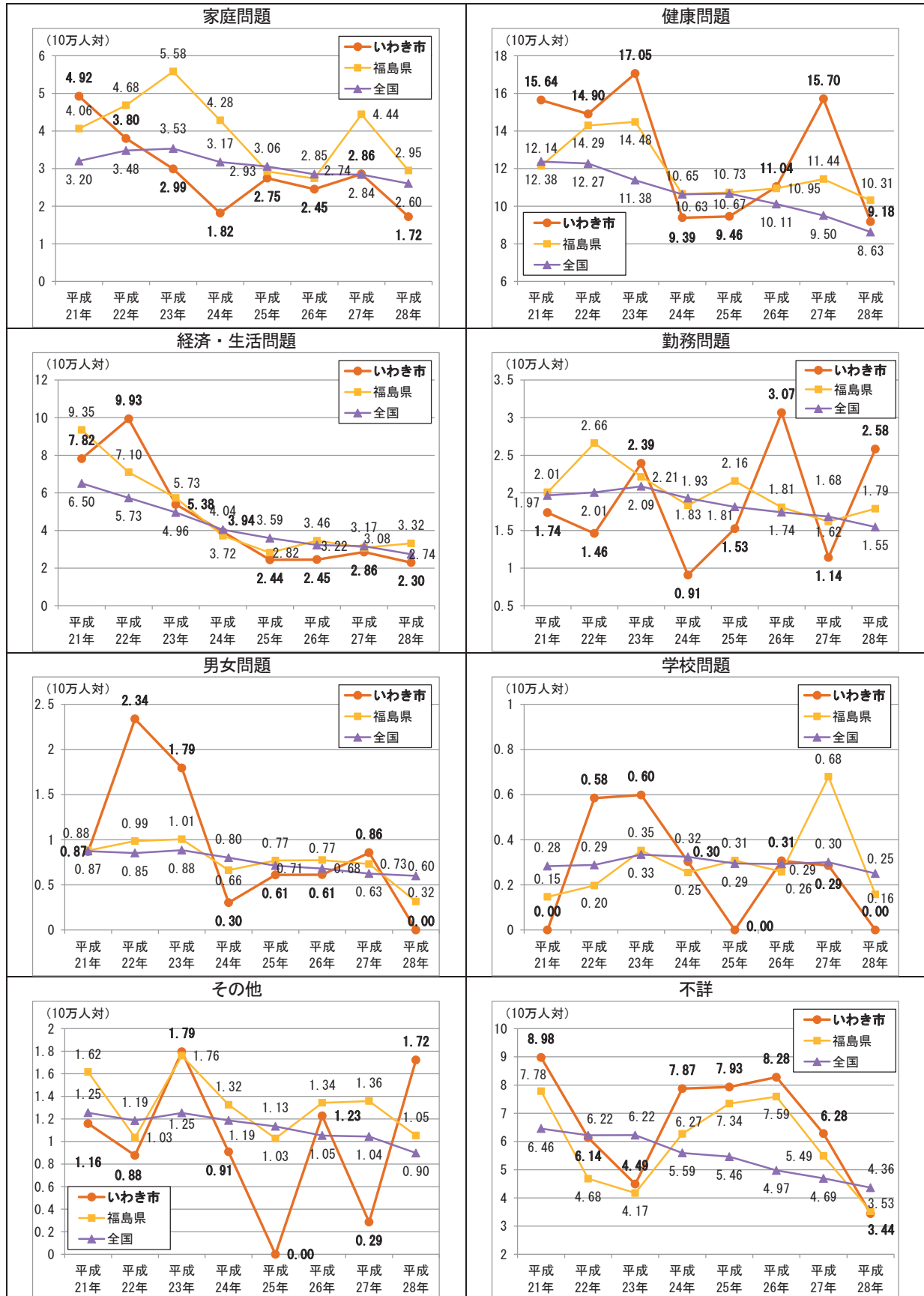
「学校問題」では、3者とも1以下の少数となっており、平成28年のいわき市は0となっています。

「その他」では、福島県と全国と比べて上昇・低下が大きく、平成28年には福島県と全国より高い1.72となっています。

「不詳」では、福島県の値を上回るものと、ほぼ同様の推移となっています。なお、平成28年には福島県と全国を下回り、3.44となっています。

第2章 いわき市の自殺の現状

■原因・動機別のいわき市、福島県、全国の上昇率の推移



注意：「原因・動機」は、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上しています。

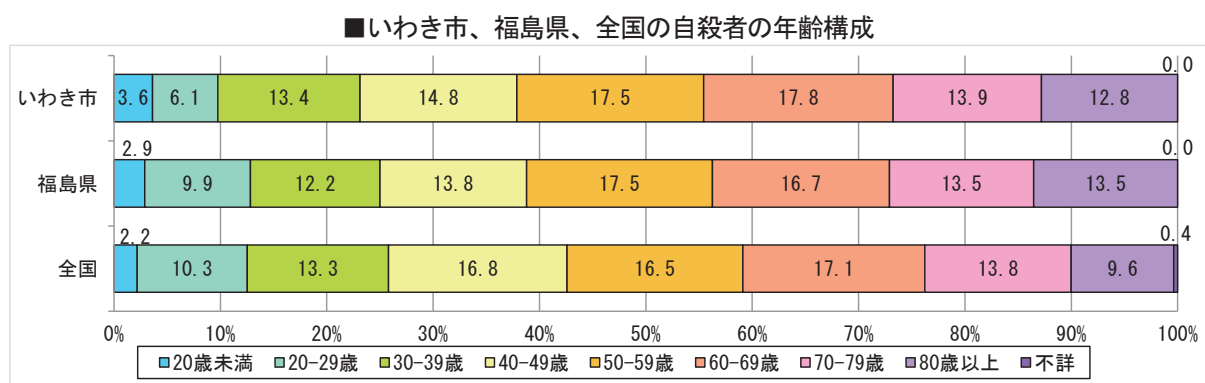
出典：自殺統計

第2章 いわき市の自殺の現状

(7) 自殺者の年齢構成の比較

自殺者の年齢構成について、平成24年から平成28年までの値を平均すると、いわき市は「20歳未満」が3.6%と福島県・全国に比べやや高くなっています。その一方で、「20-29歳」が6.1%と福島県と全国に比べて低い割合となっています。

また、「50-59歳」から「70-79歳」では福島県と全国を上回っており、50歳代以上の自殺者の割合が高い地域といえます。



出典：自殺統計

(8) 年齢層別自殺者数の推移

8つの年齢層のうち、20歳未満の男性では、平成24年を除いて毎年2人又は3人で推移しています。

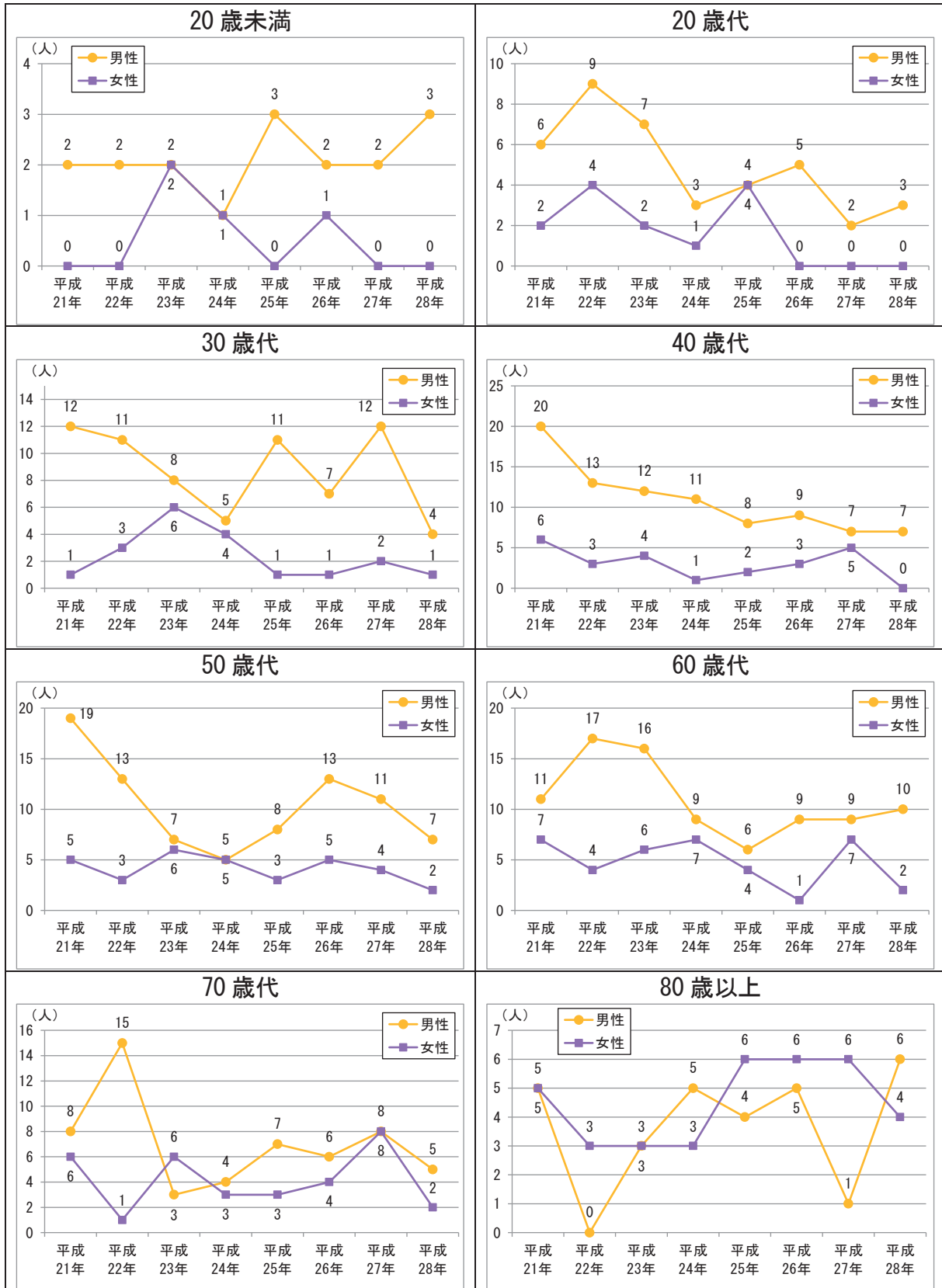
また、60歳代の男性では、平成22年から平成25年にかけて減少したものの、その後は増加傾向に転じています。同様に、70歳代では平成24年以降増加傾向がみられます。さらに、80歳以上の女性では平成22年以降3人～6人の範囲で推移しています。

その他の年齢層では、増減を繰り返しながらも、停滞若しくは減少傾向となっています。



第2章 いわき市の自殺の現状

■年齢層別自殺者数の推移

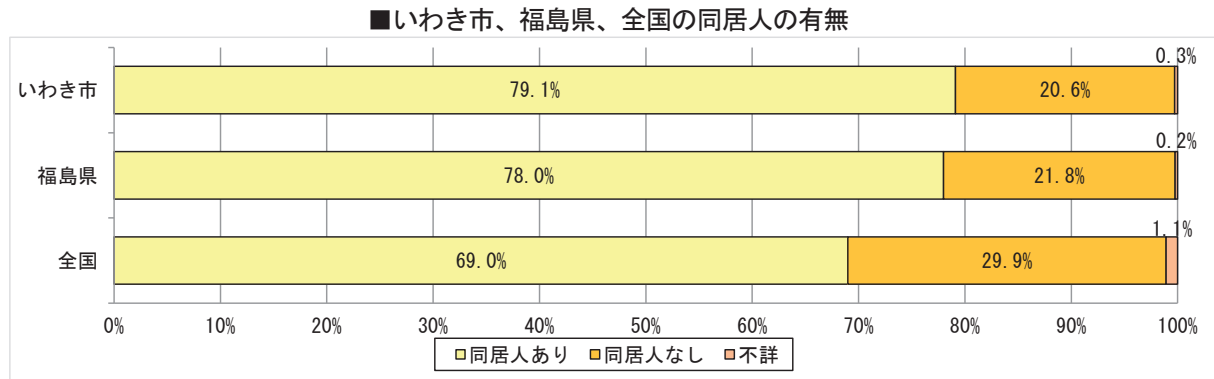


出典：自殺統計

第2章 いわき市の自殺の現状

(9) 自殺者の同居人の有無の比較

自殺者の同居人の有無について、平成24年から平成28年までの値を平均すると、いわき市は「同居人あり」が79.1%となっており、福島県の78.0%、全国の69.0%を上回っています。



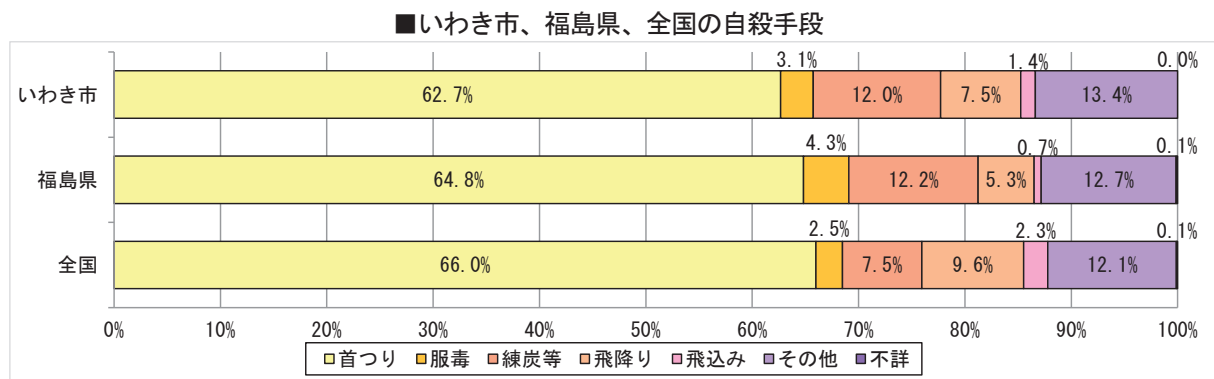
出典：自殺統計

(10) 自殺手段の比較

自殺手段について、平成24年から平成28年までの値を平均すると、いわき市は福島県と比べて「首つり」と「服毒」の割合が低く、「飛び込み」の割合は高くなっています。

また、いわき市と全国を比較すると、「首つり」と「飛び込み」の割合が低く、「練炭等」と「その他」の割合は高くなっています。

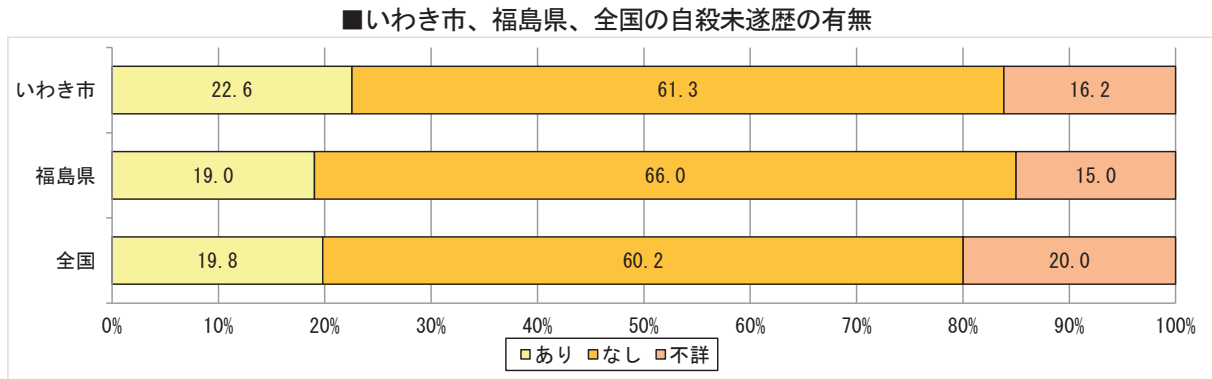
なお、いわき市の「その他」の内訳として比較的多い項目は、「入水」(4.2%)、「焼身」(2.8%)、「排ガス・その他ガス」(0.6%)があげられます。



出典：自殺統計

(11) 自殺未遂歴の有無の比較

自殺未遂の有無について、平成24年から平成28年までの値を平均すると、自殺未遂歴「あり」の割合は、いわき市では22.6%となっており、福島県の19.0%、全国の19.8%より高い割合となっています。



出典：自殺統計

<参考>「人口動態統計」と「自殺統計」

本項目において、自殺関連の数値は「人口動態統計」と「自殺統計」の2種類の統計を根拠としています。それぞれの統計には、以下の特徴があります。

	人口動態統計	自殺統計
データの根拠	医師による死亡診断書（死体検案書）に基づいた人口動態調査死亡票に基づき、厚生労働省が集計	警察活動による自殺統計原票データに基づき、厚生労働省が集計
調査対象	日本に居住する日本人	総人口（日本に居住する外国人を含む）
集計分類	住所地別に集計	住所地別・発見地別に集計 発見日・自殺日別に集計
調査時点	住所地を基に、死亡時点で計上	発見地を基に、自殺死体発見時点（認知）で計上
調査期間	毎年1月1日～12月31日 確定値は翌年9月に発表	毎年1月1日～12月31日 確定値は翌年3月に発表
死因不明の場合の訂正報告	自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理し、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上しない。	捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上する。
その他の特徴	統計法に基づく基幹資料	未遂歴や遺書の有無、原因・動機の内訳等警察の業務統計

2 「地域自殺実態プロファイル」におけるいわき市の自殺の特徴

自殺総合対策推進センターが作成した「地域自殺実態プロファイル」による、平成24年から平成28年のいわき市の自殺の特徴は以下のとおりです。

「地域自殺実態プロファイル」とは…

自殺総合対策推進センターが平成24年から平成28年の人口、企業・経済、生活・ライフスタイルに関する各種統計に基づき、自治体ごとの自殺者数や自殺死亡率、関連する地域特性を独自に分析したものです。

自殺総合対策推進センターについて

平成28年4月に改正された自殺対策基本法の新しい理念と主旨に基づき、学際的な観点から関係者が連携して自殺対策に取り組むためのエビデンスの提供及び民間団体、学術関係者、行政関係者等を含め地域の自殺対策を支援する機能を強化することを目的に設置された厚生労働省所管の機関です。

(1) 自殺者の特徴

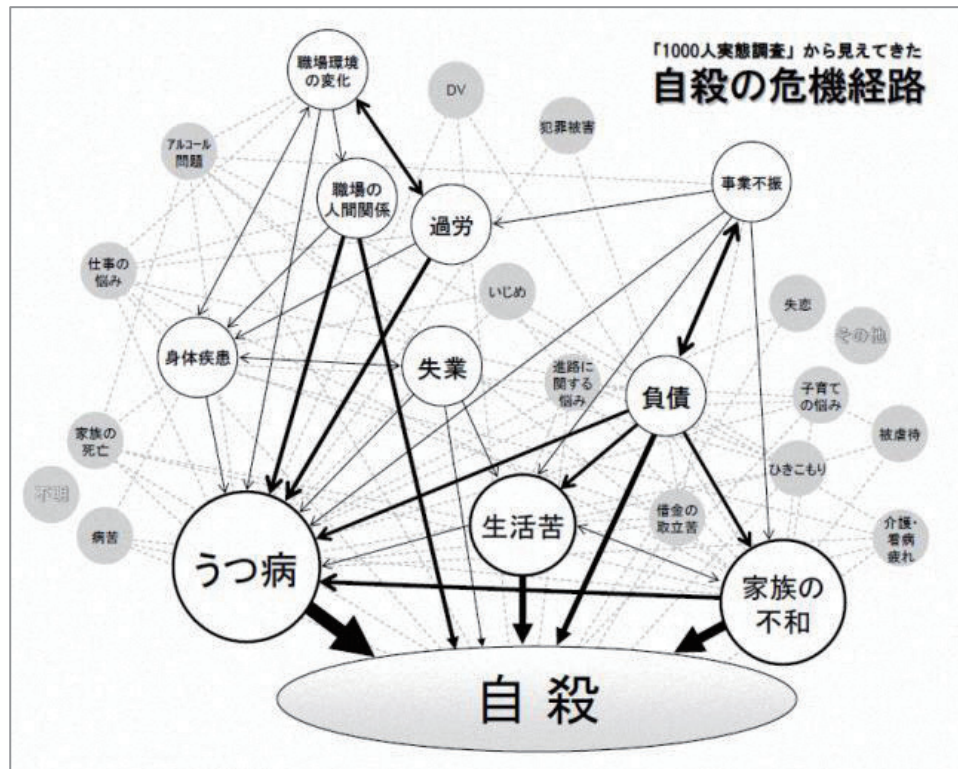
自殺者の特性を性別・年齢階層・職の有無・同居人の有無別に自殺者数の多い順に並べると、いわき市の自殺者の特徴として、男女とも「同居人のいる60歳以上の高齢者」が多く、自殺者数の1位、2位を占めています。なお、家庭の状況は類似しているものの、自殺に至る危機経路が異なります。

また、3位、4位で「40～59歳の男性」がみられます。このうち、有職者については職場での配置転換、無職者については失業に端を発しているとみられます。

なお、5位では「20～39歳の有職・同居人のいる男性」がみられます。3位と合わせると、「働いている男性」となり、仕事上の問題が自殺に結び付いている可能性が考えられます。

自殺者数上位5区分					自殺者数 5年計	自殺率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
順位	性別	年齢層	職の有無	同居人の有無			
1	男	60歳以上	無	有	64	47.1	失業（退職）→生活苦＋介護の悩み（疲れ）＋身体疾患→自殺
2	女	60歳以上	無	有	48	20.8	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3	男	40～59歳	有	有	36	20.1	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み＋仕事の失敗→うつ状態→自殺
4	男	40～59歳	無	有	26	178.5	失業→生活苦→借金＋家族間の不和→うつ状態→自殺
5	男	20～39歳	有	有	24	18.9	職場の人間関係／仕事の悩み（ブラック企業）→パワハラ＋過労→うつ状態→自殺

なお、前述の「背景にある主な自殺の危機経路」の列には、それぞれのグループが抱え込みやすい要因、その連鎖につながる主な事項が記載されています。



出典：「自殺実態白書 2013」（NPO法人ライフリンク）より

（2）推奨される重点パッケージ

「高齢者」、「生活困窮者」、「勤務・経営」

重点パッケージについて…

自殺総合対策推進センターは（1）の「自殺者の特徴」の上位の3区分の性・年代等の特性と「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に、地域の自殺リスクの評価を行っています。

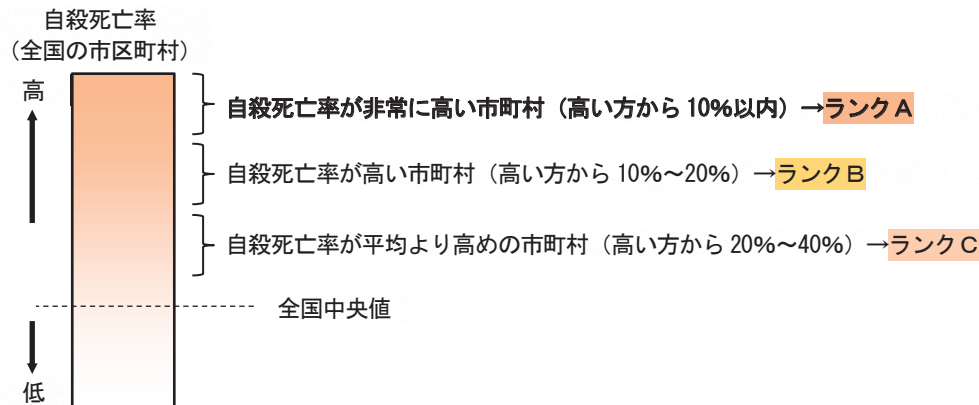
その結果、自殺対策プロファイルにおいて、本市の「重点パッケージ（対策が優先されるべき対象群）」は上記の3つが推奨されました。

第2章 いわき市の自殺の現状

(3) 分類別の自殺の特徴（全国との比較）

本項目において、自殺死亡率を「年齢区分別」、「性別」、「年齢層別」、「その他」の4種類の区分で全国の中央値との比較を掲載しています。

なお、「自殺死亡率のランク」は、全国の市区町村の各分類別の自殺死亡率を比較し、「どの程度自殺死亡率が高いか」を分類したものです。



①年齢区分別の特徴

いわき市の自殺死亡率は、総数では全国中央値と大きな差はみられませんが、年齢別でみると「20 歳未満」が「ランク B」（自殺死亡率の高い方から上位 10～20%）となっています。また、「30 歳代」、「60 歳代」、「80 歳以上」でも「ランク C」（自殺率の高い方から上位 20～40%）と比較的高い数値となっています。

なお、「20 歳代」以外は、全国中央値を上回っています。

■自殺の特性の評価（H24～28 合計、総数及び年齢区分別）

区分		自殺死亡率（10 万人対）		自殺死亡率のランク	備考
		いわき市	全国中央値		
総数		21.4	20.0	—	
年齢区分別	20 歳未満	4.4	0.0	ランク B	
	20 歳代	14.0	16.2	—	
	30 歳代	24.3	18.7	ランク C	
	40 歳代	24.5	22.0	—	
	50 歳代	28.2	25.5	—	
	60 歳代	25.2	22.6	ランク C	1 人の変更で順位変更あり
	70 歳代	26.3	24.3	—	
	80 歳以上	33.0	25.1	ランク C	

②性別の特徴

性別でみると、男女とも全国中央値を上回る自殺死亡率となっています。このうち、女性では「ランク C」（自殺率の高い方から上位 20～40%）と比較的高い数値となっています。

■自殺の特性の評価（H24～28 合計、性別）

区分		自殺死亡率（10 万人対）		自殺死亡率のランク	備考
		いわき市	全国中央値		
性別	男性	30.1	28.5	—	
	女性	13.1	11.5	ランク C	

③年齢層別の特徴

年齢階層別でみると、「若年者」、「高齢者」とも全国中央値を上回る自殺死亡率となっています。このうち、「高齢者」では「ランクC」（自殺死亡率の高い方から上位20～40%）と比較的高い数値となっています。

■自殺の特性の評価（H24～28 合計、年齢層別）

区分		自殺死亡率（10万人対）		自殺死亡率のランク	備考
		いわき市	全国中央値		
年齢層	若年者（20～39歳）	19.8	18.7	—	
	高齢者（70歳以上）	29.2	25.9	ランクC	

④その他区分の特徴

その他区分別でみると、「勤務・経営」では全国中央値を下回っていますが、「無職者・失業者」では全国中央値を上回っています。なお、全国中央値と比較して、特徴的な自殺死亡率とはなっていません。

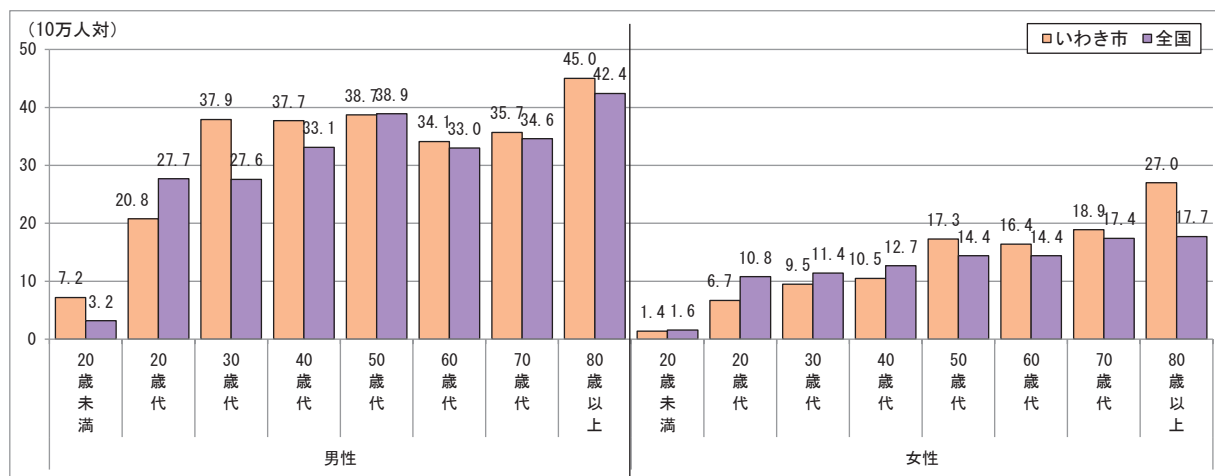
■自殺の特性の評価（H24～28 合計、その他）

区分		自殺死亡率（10万人対）		自殺死亡率のランク	備考
		いわき市	全国中央値		
その他	勤務・経営	16.4	17.0	—	
	無職者・失業者	41.1	38.8	—	

（4）性別・年齢層別の自殺死亡率の特徴

平成24年から平成28年までの自殺死亡率を性別・年齢層別にみると、男性では「20歳代」を除く各年齢層で全国を上回っています。また、女性は「50歳代」以上で全国を上回っています。

この中で、「30歳代・男性」では全国を10.3ポイント（いわき市37.9%、全国27.6%）、「80歳以上・女性」では全国を9.3ポイント（いわき市27.0%、全国17.7%）上回っています。



3 「健康いわき 21（第二次）中間評価のための市民アンケート」における自殺関連設問の傾向について

市が平成 29 年度に実施した「健康いわき 21（第二次）中間評価のための市民アンケート」のうち、自殺に関連する4項目について、「青年期」（16～29 歳）、「壮年期」（30～64 歳）、「高齢期」（65 歳以上）の3つの年齢層別の実施した調査データを一体化し、属性別にクロス集計を行った結果の傾向を整理したものです。

クロス集計項目は「居住地区（3区分）」、「居住地区（13 区分）」、「年齢（10 歳階級）」、「就労の有無」、「就労業種」、「家族構成」、「家族数」、「健康状態（本人の主観）」の8項目です。

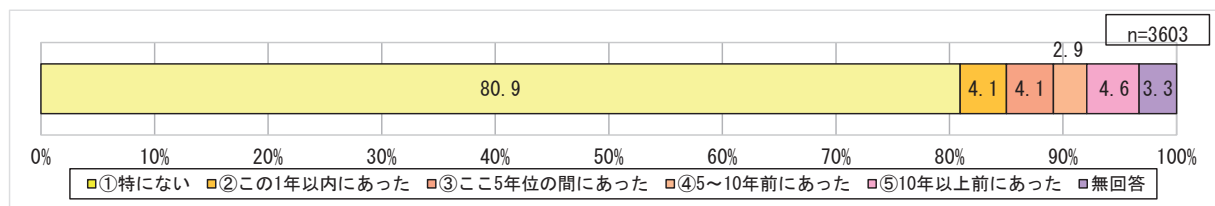
＜グラフを読むに当たっての注意事項＞

- ① 図表の中のnは、回答者の総数を意味しています。設問によっては、回答者が制限される（別の設問である選択肢を選んだ回答者のみ回答する場合など）ため、nは一定ではありません。
- ② 比率は、nを 100%とした百分比で算出し、小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、表示されている百分比の合計が 100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答が可能な設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがあります。

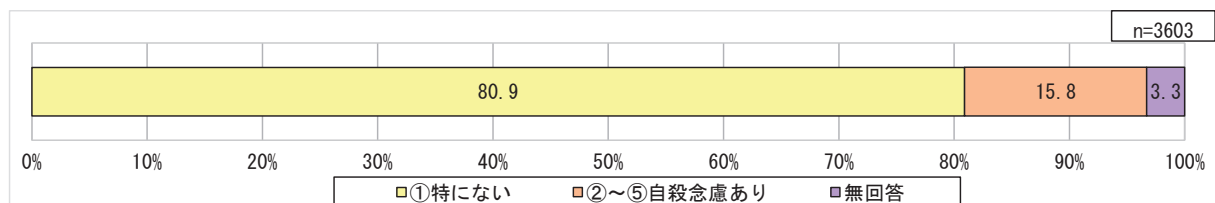
あなたはこれまでに、「自殺したい」と考えたことはありましたか。

〇市全体集計

自殺念慮の有無について、「①特にない」が 80.9%と多数を占めています。しかし、「②この1年以内にあった」は 4.1%みられます。



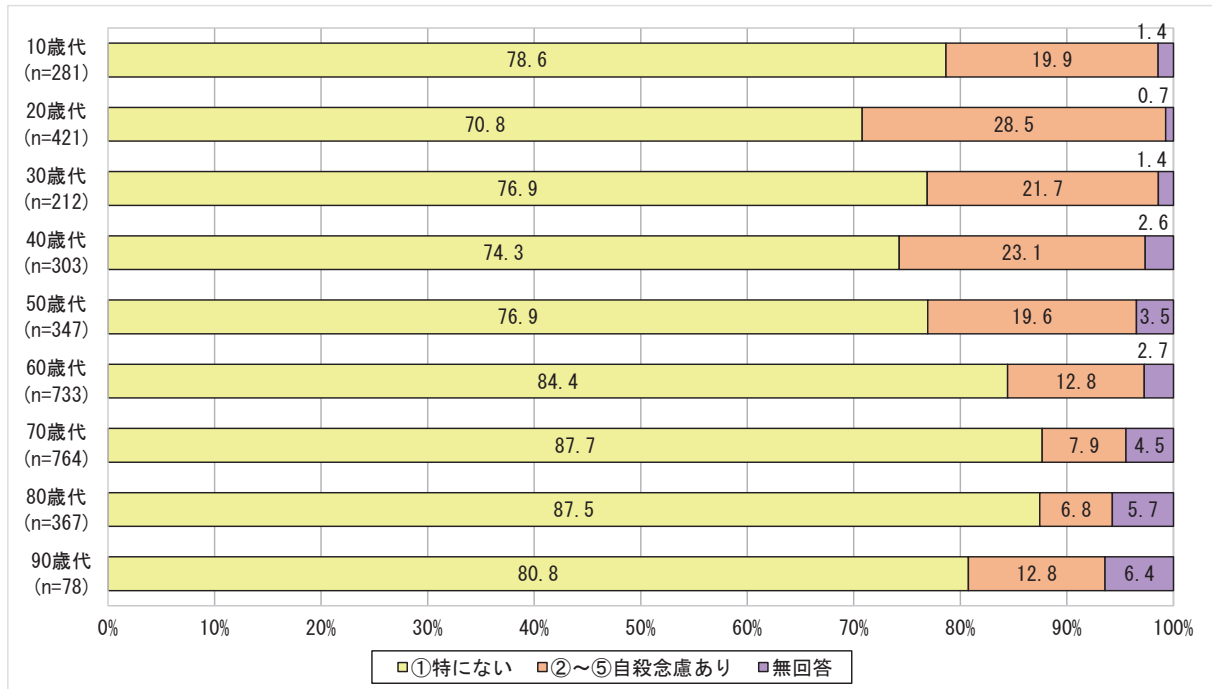
なお、②～⑤を合算して「自殺念慮あり」とすると、市全体で 15.8%が該当します。



○年齢（10 歳階級）別集計

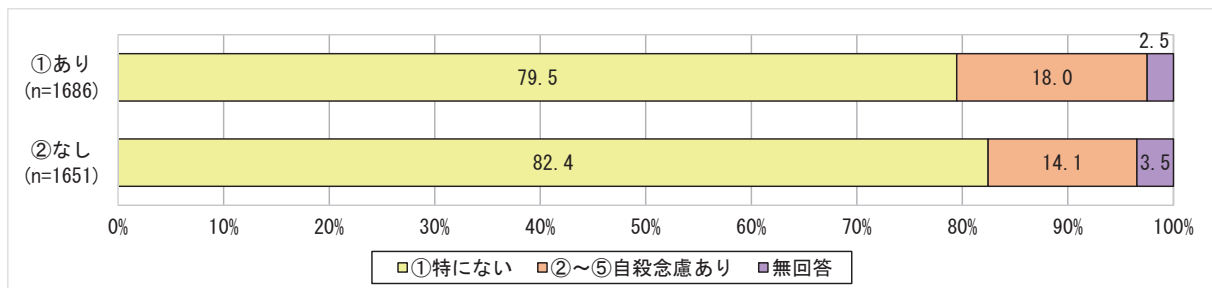
「自殺念慮あり」の割合は、「20 歳代」から「40 歳代」で 20%を超えており、特に「20 歳代」で 28.5%と高い割合となっています。

その一方で、「70 歳代」、「80 歳代」では 10%以下の低い割合となっています。



○就労の有無別集計

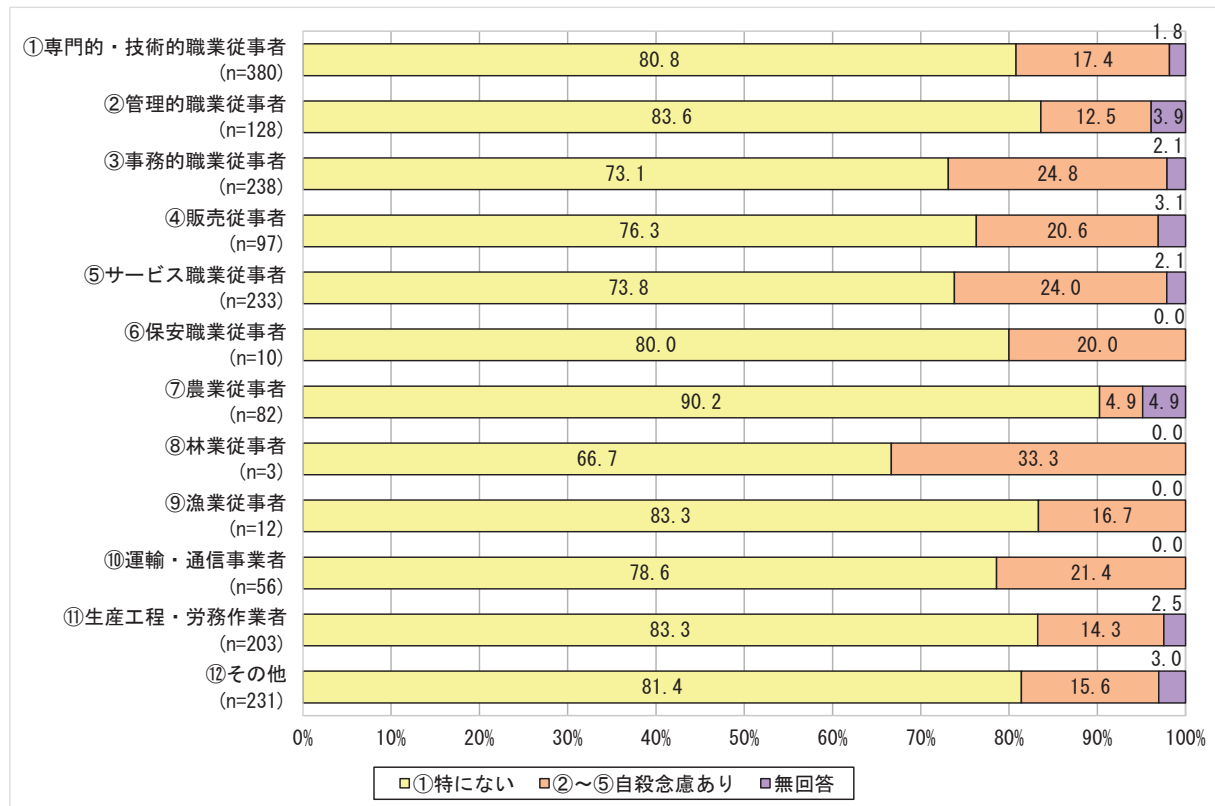
就労の有無別にみると、「自殺念慮あり」の割合は、「あり」の方が、「なし」よりも、3.9 ポイント上回っています。



第2章 いわき市の自殺の現状

○就労業種別集計

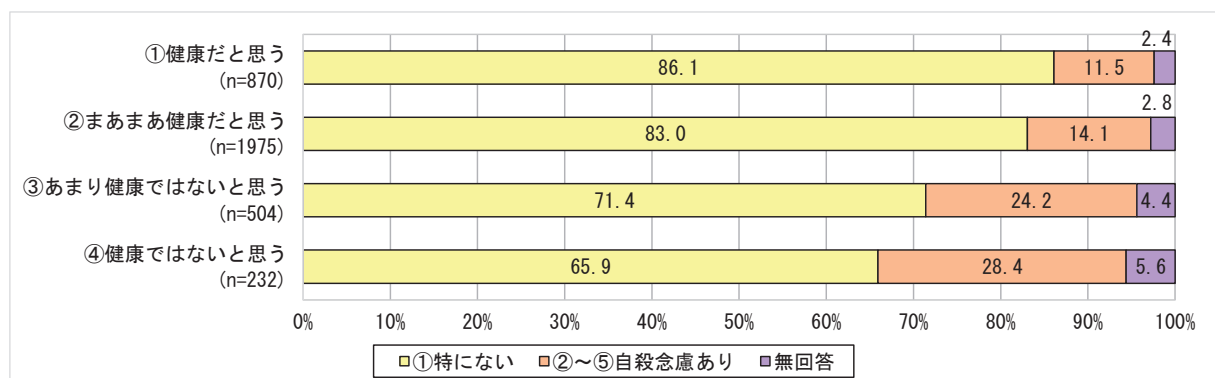
「自殺念慮あり」の割合は、「事務的職業従事者」、「販売従事者」、「サービス職業従事者」で20%を超えています。



※「⑧林業従事者」、「⑩運輸・通信事業者」も20%を超えていますが、回答者数が少数のため、文章から削除しています。

○健康状態（本人の主観）別集計

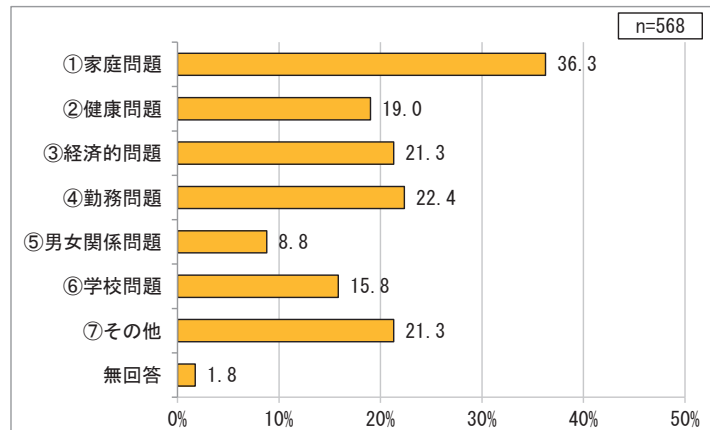
「自殺念慮あり」の割合は、「健康だと思う」では11.5%となっています。健康状態が悪くなるほど「自殺念慮あり」の割合は高くなり、「健康ではないと思う」では28.4%となっています。



前問で②～⑤と答えた方（「①特にない」以外の回答者）にお聞きします。「自殺したい」と思った理由や原因はどのようなことですか。【複数回答可】

〇市全体集計

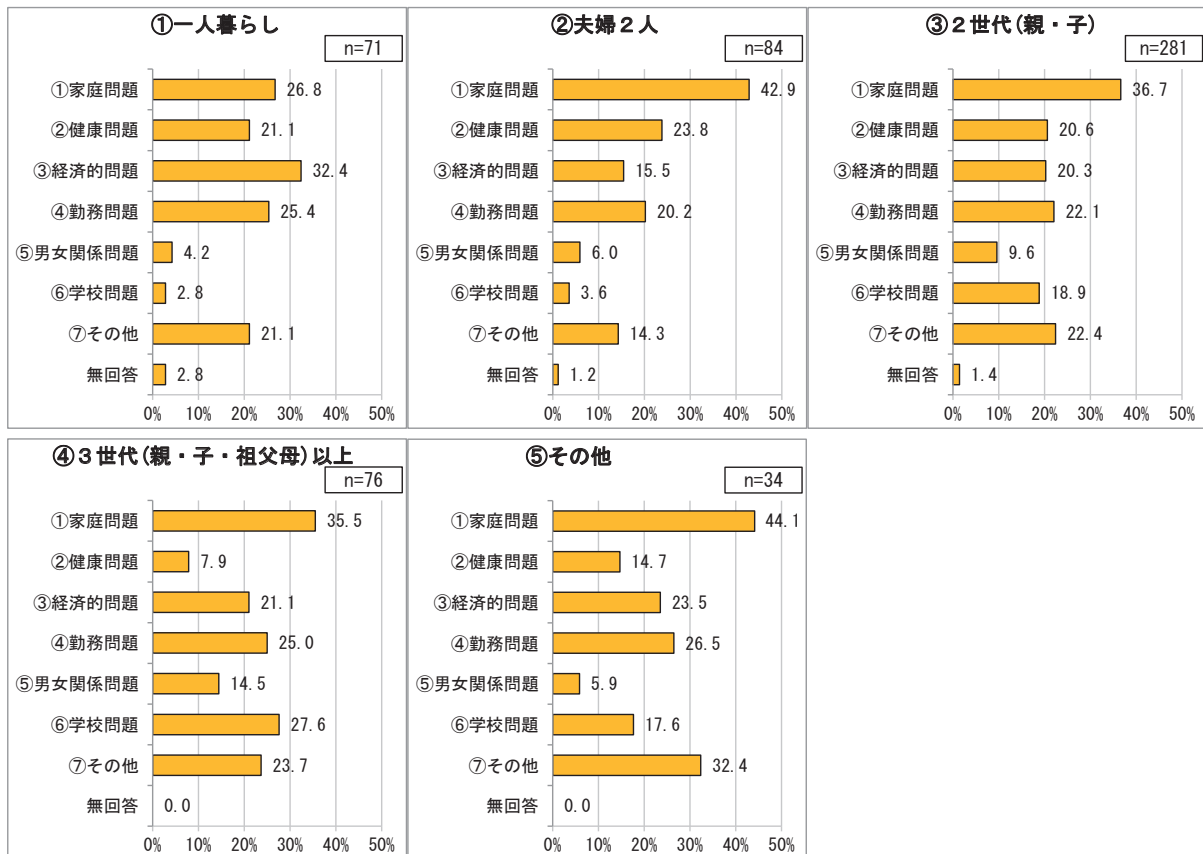
自殺念慮の理由について、「①家庭問題」が36.3%と最も割合が高く、次いで「④勤務問題」が22.4%、「③経済的問題」と「⑦その他」がともに21.3%となっています。



〇家族構成別集計

一人暮らし世代では「経済的問題」が32.4%で最も高い割合となっていますが、その他の世帯構成では「家庭問題」の割合が最も高くなっています。

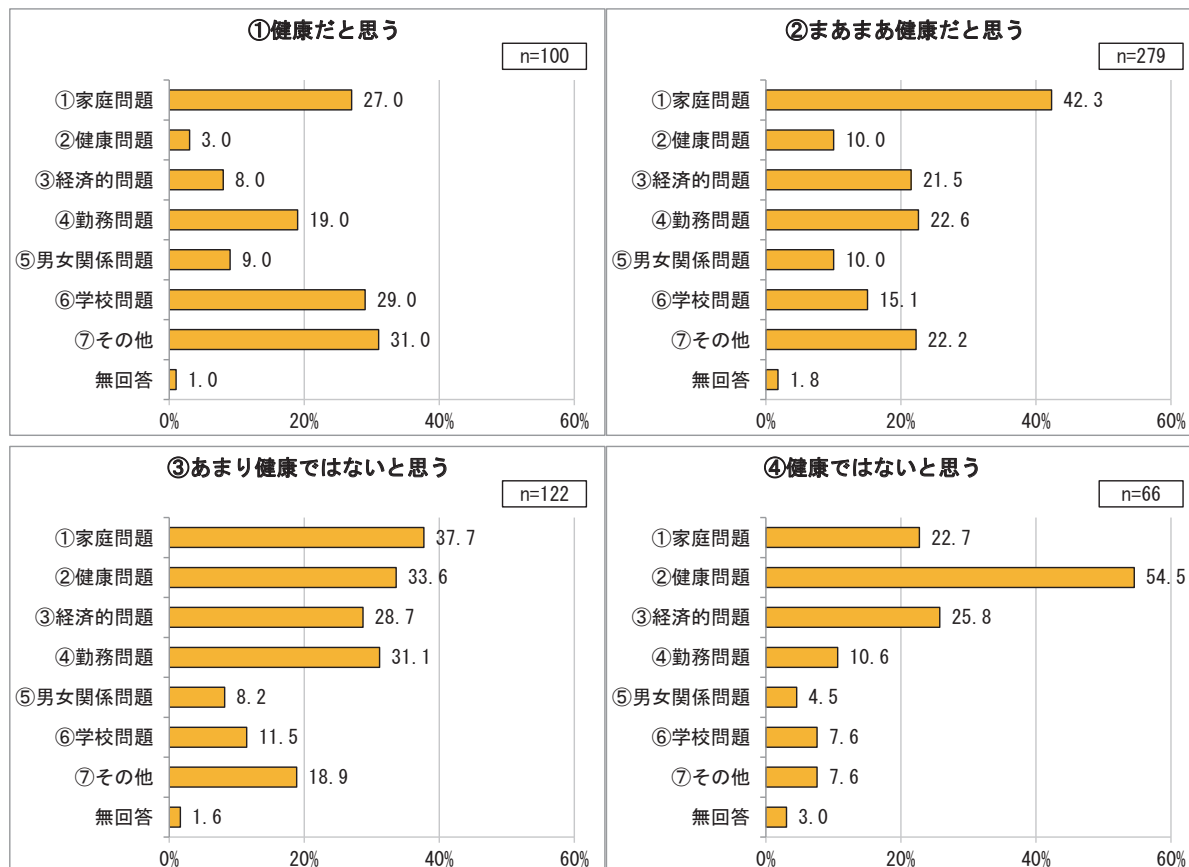
なお、夫婦2人世帯では「家庭問題」が42.9%と半数近くを占めています。



第2章 いわき市の自殺の現状

○健康状態（本人の主観）別集計

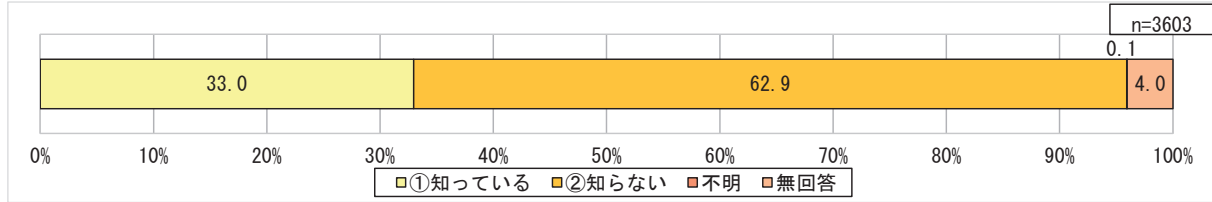
健康状態により傾向に違いがみられ、「健康だと思う」では「その他」、「まあまあ健康だと思う」と「あまり健康ではない」では「家庭問題」、「健康ではないと思う」では「健康問題」の割合が最も高くなっています。



「心の健康や病気」について、相談できる窓口を知っていますか。

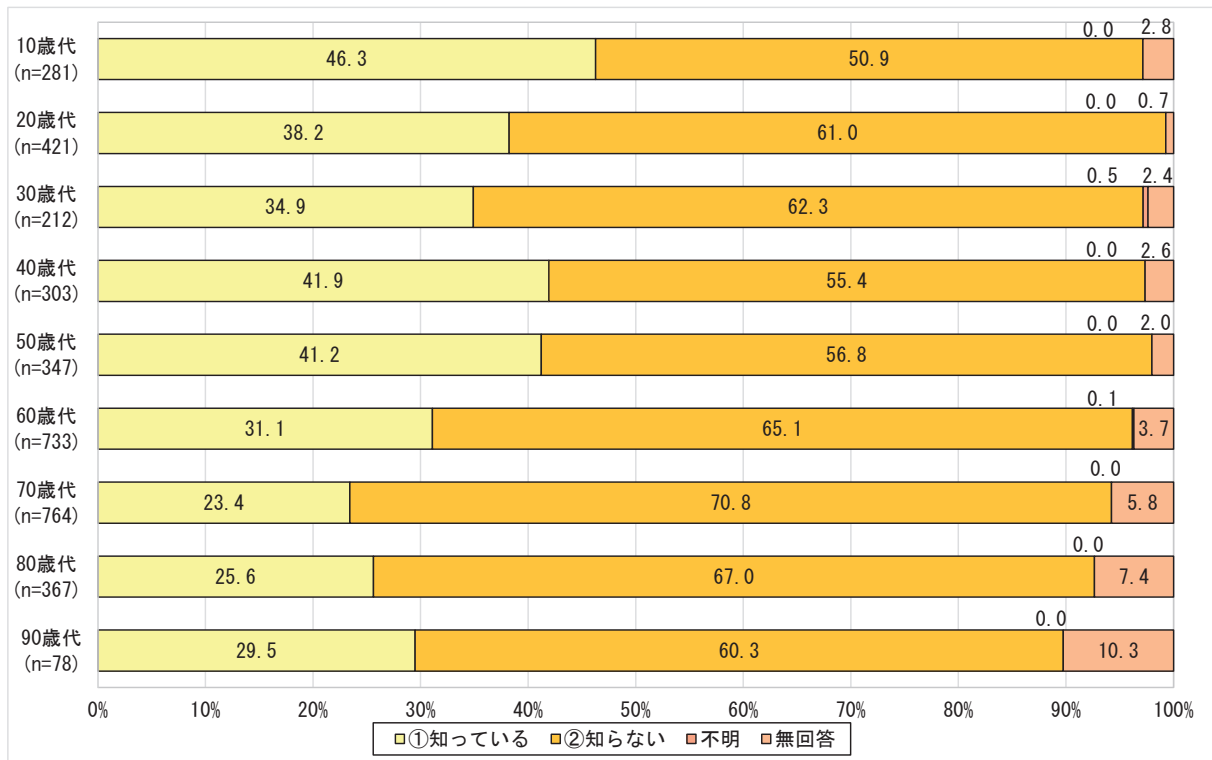
〇市全体集計

心の健康や病気の相談窓口について、「①知っている」が33.0%、「②知らない」が62.9%となっており、窓口を知っている市民は1／3程度となっています。



〇年齢（10歳階級）別集計

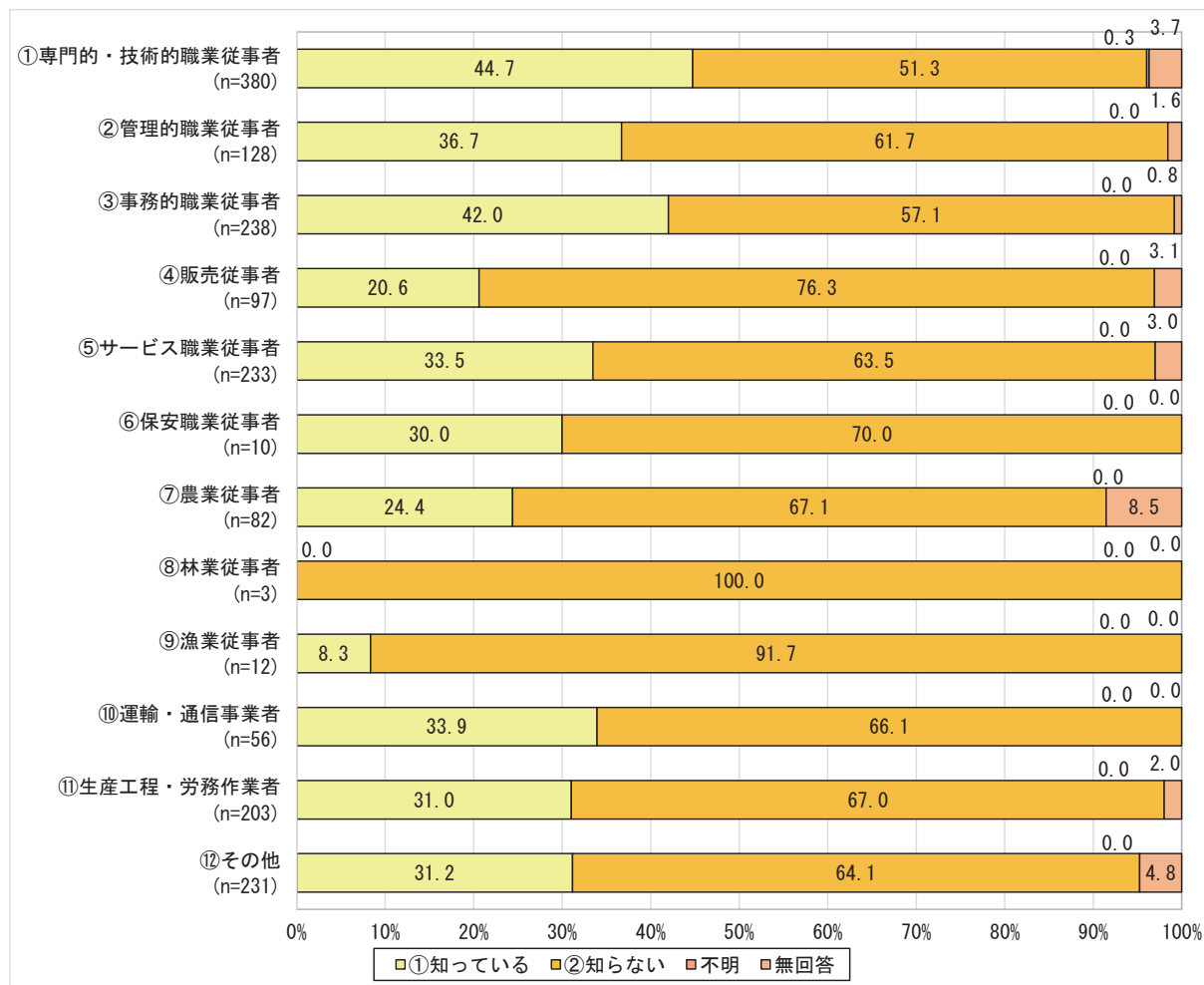
「10歳代」、「40歳代」、「50歳代」では「知っている」が40%を超えています。その一方で、「70歳代」以上では「知っている」が20%台と比較的低い割合となっています。



第2章 いわき市の自殺の現状

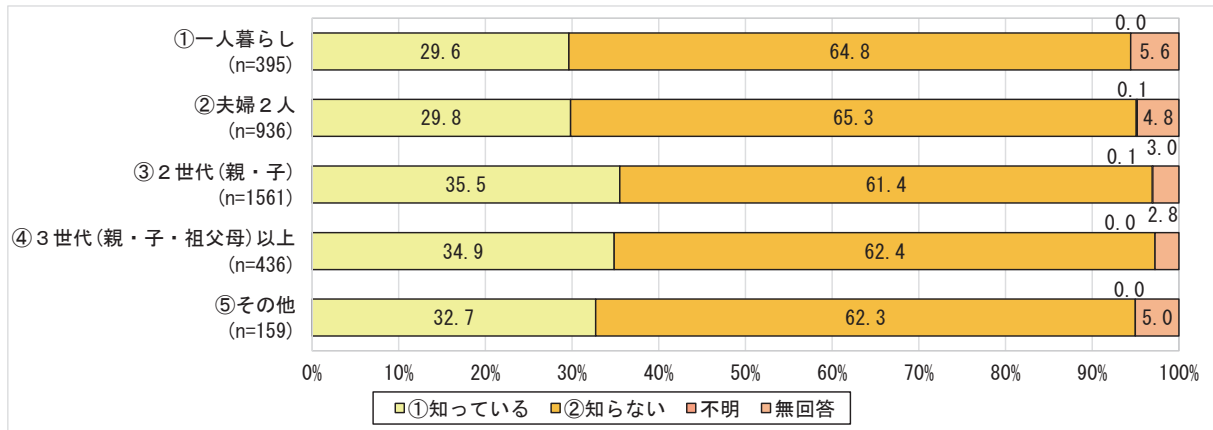
○就労業種別集計

「専門的・技術的職業従事者」と「事務的職業従事者」では、「知っている」が40%を超えています。その一方で、「販売従事者」と「農業従事者」では「知っている」は20%台前半で比較的低い割合となっています。また、「林業従事者」では、回答者3人全員が「知らない」と回答しています。



○家族構成別集計

「知っている」が一人暮らし世帯と夫婦2人の世帯では30%以下、2世代世帯と3世代世帯では35%前後となっており、多世代世帯で知っている人の割合が高くなっています。

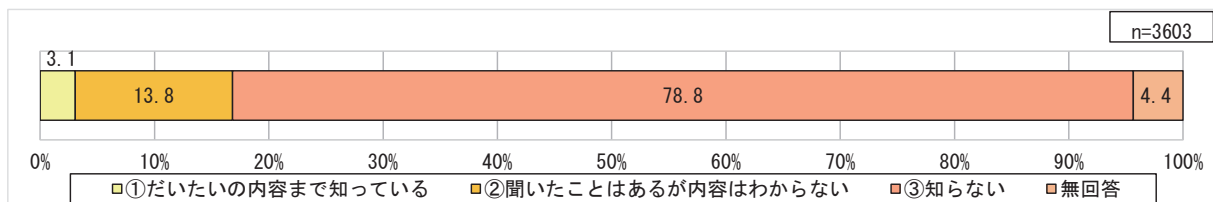


「ゲートキーパー」という言葉を知っていますか。

○市全体集計

ゲートキーパーの認識について、「③知らない」が78.8%と最も割合が高く、市民の3/4以上となっています。

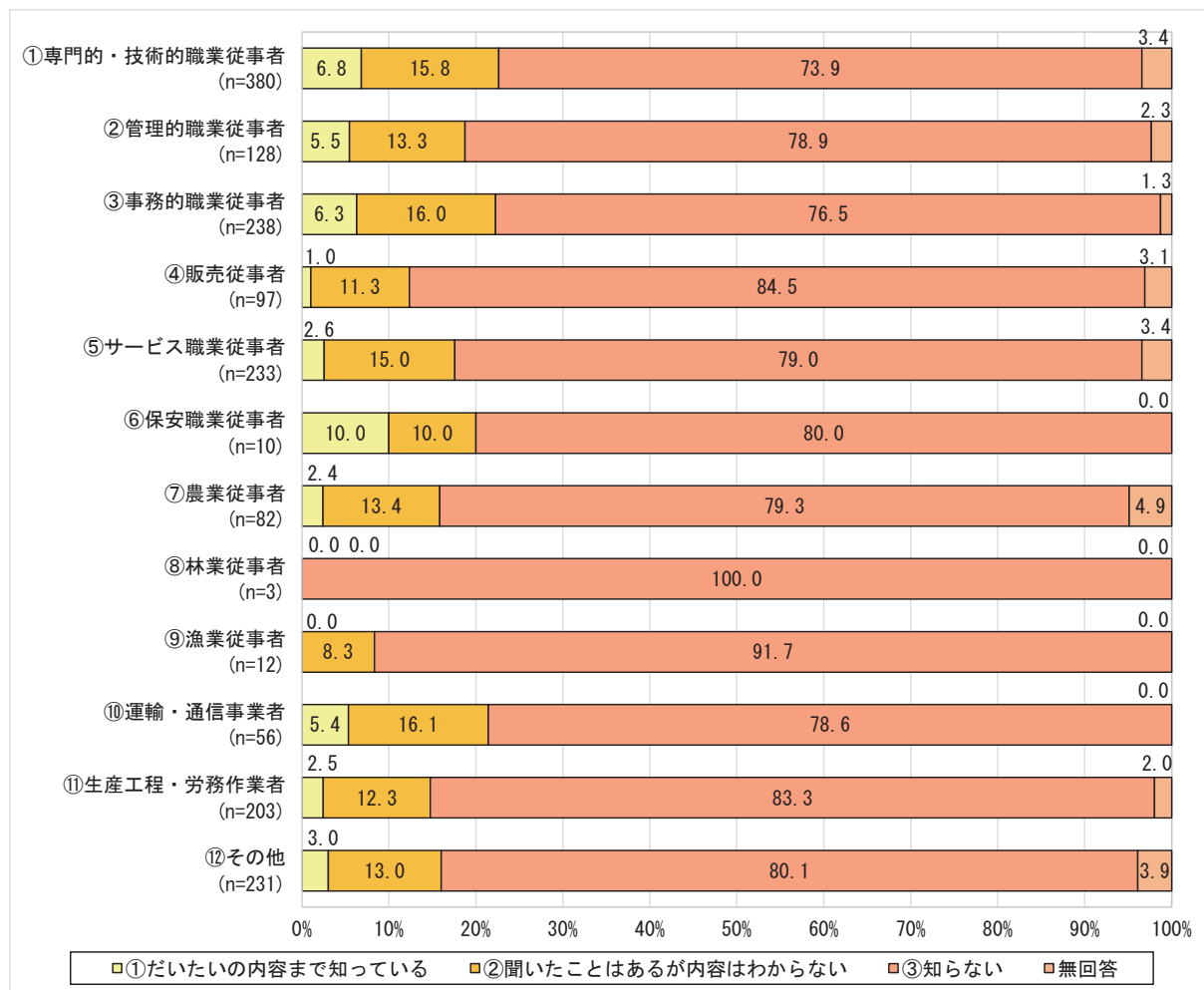
なお、「①だいたいの内容まで知っている」が3.1%、「②聞いたことはあるが内容はわからない」が13.8%となっており、これを合わせて「名前だけでも知っている」とすると、16.8%が該当します。



第2章 いわき市の自殺の現状

○就労業種別集計

「だいたいの内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容はわからない」を合わせて「名前だけでも知っている」とすると、「専門的・技術的職業従事者」と「事務的職業従事者」では「名前だけでも知っている」が20%を超えています。その一方で、販売従事者では12.4%と比較的低い割合となっています。

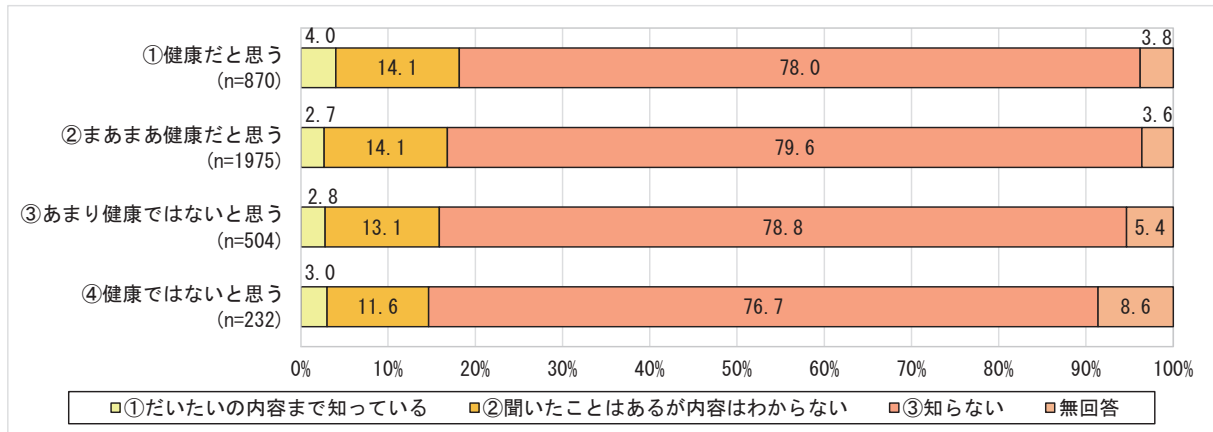


※「⑧林業従事者」、「⑩運輸・通信事業者」も20%を超えていますが、回答者数が少数のため、文章から削除しています。



○健康状態（本人の主観）別集計

「名前だけでも知っている」の割合は、「健康だと思う」で18.2%（870人中158人）、「健康ではないと思う」で14.7%（232人中34人）となっており、健康状態が良いほど、「名前だけでも知っている」の割合が高くなっています。



4 対策が優先されるべき対象群

いわき市において、対策が優先されるべき対象群は、以下の6分類とします。

このうち、(1) から (5) については自殺総合対策推進センターが作成した「自殺者」の特徴、(6) については、全国的にもランクが高い分野を対象とします。

(1) 60 歳以上の男性（無職者、同居人あり）

「地域自殺実態プロファイル」における、いわき市の自殺の特徴として「60 歳以上の無職、同居人のいる男性」が最も多く、自殺者の第1位となっています。

その中で、特に 80 歳以上の自殺死亡率は 45.0 と高い水準となっています。

(2) 60 歳以上の女性（無職者、同居人あり）

「地域自殺実態プロファイル」における自殺者の特徴の第2位が「60 歳以上の無職、同居人のいる女性」です。

その中で、特に 80 歳以上の自殺死亡率は 27.0 となっており、全国平均の 17.7 を大きく上回っています。

(3) 40～59 歳の男性（有職者、同居人あり）

「地域自殺実態プロファイル」における自殺者の特徴の第3位が「40～59 歳で仕事を持ち、同居人のいる男性」です。

「働き盛りの世代」であり、家庭や職場で重責を担う世代と考えられ、公私共に過労やストレスが大きい世代といえます。

(4) 40～59 歳の男性（無職者、同居人あり）

「地域自殺実態プロファイル」における自殺者の特徴の第4位が「40～59 歳の無職、同居人のいる男性」です。

「働き盛りの世代」であるものの、就労による収入がなく、生活困窮に進みやすいと考えられます。

(5) 20～39 歳の男性（有職者、同居人あり）

「地域自殺実態プロファイル」における自殺者の特徴の第5位が「20～39 歳で仕事を持ち、同居人のいる男性」です。ただし、同居人は親と配偶者に分けられると考えられます。

主に、企業で若手として働く世代であり、過労やストレスを受けやすい世代といえます。

(6) 20 歳未満の男性

自殺者数、自殺死亡率は、他の年齢層より低い水準ですが、平成 21 年以降でみると、20 歳未満の男性の自殺者は平成 24 年を除いて複数人みられ、平成 24 から平成 28 年までの5か年で 11 人となっています。これにより、20 歳未満の自殺死亡率は「ランクB」で全国の市町村の中でも高い分類に入っています。